



おすすめ本フェア

今、子どもと生きるということ

鈴木晶子さん選書 「子どもと共に生きる社会」

2017年2月

	書名	著・編者名	出版社	出版年	分類
1	軋む社会 教育・仕事・若者の現在	本田由紀	双風舎	2008	A35キ
2	貧困のなかでおとなになる	中塚久美子	かもがわ出版	2012	A382ヒ
3	子どもの貧困	阿部彩	岩波書店	2008	A382コ
4	子どもの最貧国・日本	山野良一	光文社	2008	A38コ
5	徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす	日本財団子どもの貧 困対策チーム	文藝春秋	2016	A382テ
6	「鬼畜」の家 わが子を殺す親たち	石井光太	新潮社	2016	A382キ
7	ドキュメント高校中退	青砥恭	筑摩書房	2009	A3734ド
8	若者が《社会的弱者》に転落する	宮本みち子	洋泉社	2002	A381ワ
9	女子高生の裏社会	仁藤夢乃	光文社	2014	A381ジ
10	女子大生風俗嬢	中村淳彦	朝日新聞出版	2015	A311ジ
11	性風俗のいびつな現場	坂爪真吾	筑摩書房	2016	C18セ
12	施設で育った子どもたちの語り	『施設で育った子どもた ちの語り』編集委員会	明石書店	2012	A382シ
13	ひきこもり支援論	竹中哲夫	明石書店	2010	A381ヒ
14	居場所のちから	西野博之	教育史料出版会	2006	A381イ
15	子ども食堂をつくろう！	豊島子どもWAKUWA KUネットワーク	明石書店	2016	A381コ
16	さっちゃん	荒木経惟	新潮社	1994	D2112サ

今、子どもと生きるということ

「子どもと共に生きる社会」

鈴木晶子さんの推薦本リスト

選者プロフィール

鈴木 晶子 (すずき あきこ)



若年生活困窮者の支援をしている臨床心理士。心理的なケアやソーシャルワーク、就労支援、地域コーディネートを主とした寄り添い型の支援を行う。

現在、生活困窮者を支援する一般社団法人インクルージョンネットかながわ <<http://inclusion-net.jp/>> 代表理事。

同法人の運営する鎌倉市生活困窮者自立相談支援事業

<<http://inclkamakura.net/>> 主任相談員、藤沢市就労準備支援事業（社会福祉法人いきいき福祉会との協働事業）相談員。

他に、貧困世帯の高校生を支援する NPO 法人パノラマ <<https://www.facebook.com/npopanorama>> 理事。

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク <<http://www.life-poor-support-japan.net/>> 事務局。

風俗店に在籍する女性への出張相談「風テラス」相談員。

共著に『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）など。

鈴木晶子さんからの推薦図書メッセージ

現代の子どもたちを見るとき、さまざまなアングルがあろうかと思いますが。私は貧困やひきこもりなど様々な困難を抱えている子ども若者の支援を専門としておりますので、その切り口から今回 16 冊の書籍を選びました。ですから、今回の選書は非常に偏ったものであることをご理解ください。

専門性のある書籍に加え、読みやすいポルタージュや、当事者の語りを主体とした書籍も紹介してあります。読み進めていくと、現代の子どもたち、子どもたちの少し先にある若者たちの置かれている厳しい現実が見えてくると思います。また、支援に関する書籍も紹介していますので、ぜひどのような支援があると良いのか、知っていただければと思います。

ただし、昨今の貧困報道に見られるような「可哀想な貧困の子ども」というフレームで子どもたちを見ないで欲しいのです。子どもたちは困難の中でも懸命に今を生き、日々成長しています。選書の最後に挙げたのは写真家・荒木経惟氏が貧困の子どもたちを撮った写真集です。溢れんばかりの笑顔で紙面からはみ出す子どもたちをおさめたこの写真集のあとがきには、こう書かれています。

「写真を枠に入れちゃいけないってことなんだよ、実は。フレーミングしっかり入れちゃうと、棺桶だからね、入れちゃだめだって」

ぜひ、素顔の子どもたちと出会い、その成長に立ち会う、そんな目線で子どもたちと、それぞれの地域で共に生きていただければと思います。

1、軋む社会

本田由紀 著

教育・仕事・若者の現在

(双風舎) 2008年



家族-教育-仕事のスムーズな循環に「軋み」があらわれ、その負荷が若者へとかかっていると言います。「教育格差」、賃金抑制や長時間労働奨励につながる「やりがい搾取」などで若者が夢や将来の展望を見いだせない社会をいかにして変えるかを考えます。「社会は変えられる。問題には対処できる。そう信じて動くこと、答えはそこにしかない」と教育社会学者の著者は断言します。

2、貧困のなかでおとなになる

中塚久美子 著

(かがわ出版) 2012年



子どもの貧困は、欲しいものや必要なものが買えない不便さではありません。お金がないことから始まる孤立、あらゆる情報からの疎外、学業不振・学力の遅れを立て直せない環境、夢を持たないという自己防衛の原因になっていると言います。社会の使命である成熟した市民を育てるために、子ども期の貧困は大きな障害になっているとも言います。身近なのに見えにくい子どもの貧困に迫ります。

3、子どもの貧困

阿部彩 著

日本の不公平を考える

(岩波書店) 2008年



『貧困』は格差が存在する中でも、社会の中のどのような人も、それ以下であるべきでない生活水準、そのことを社会として許すべきではない、という基準である」と著者は言います。「許容できない生活水準＝貧困状態」で生活する子どもたちの実態を探り、子どもにとって貧困とは何かを論じます。

4、子どもの最貧国・日本

山野良一 著

学力・心身・社会におよぶ諸影響

(光文社) 2008年



家賃の滞納で、児童養護施設に預けられることになり、母親にしがみついて大泣きする幼い兄弟。朝ごはんも十分に食べられずに、給食までの数時間を耐え続ける小2の少年。子どもたちはその成長の可能性の裏返しとして、身体やメンタルな面に脆弱さを抱えており、大人以上の影響を受けてしまうと言います。児童相談所で、児童福祉士として働く著者が、日本の子どもの貧困について考えます。

5、徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす

日本財団子どもの貧困対策チーム 著

社会的損失40兆円の衝撃

(文藝春秋) 2016年



貧困問題を経済問題として推計したレポートの書籍化です。子どもの貧困は日本社会全体を揺るがす大きな問題であり、国民一人ひとりの将来や老後の生活までも脅かす重大な問題です。推計レポートに加え、当事者の体験談、子どもの貧困問題の解決策についての仮説をも提示します。子どもの貧困を「ジブゴト」として考え、行動した先に明るい未来が待っていると著者は言います。

6、「鬼畜」の家

石井光太 著

わが子を殺す親たち

(新潮社) 2016年



3歳の次男をウサギ用ケージに閉じ込め殺し、次女は犬用リードで拘束し暴行した夫婦。5歳の子をアパートに放置し、死に至らしめた夫婦。嬰兒の遺体を天井裏や押し入れに隠した母親。彼らは、「愛していたけど、殺してしまいました」と異口同音に語ると言います。家庭という密閉された空間で殺される子どもとその背景を追います。

7、ドキュメント高校中退

青砥恭 著

いま、貧困がうまれる場所

(筑摩書房) 2009年

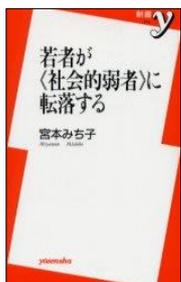


親の所得によって進学する高校が決まり、高校間の格差によって子どもたちの人生、生き方や文化さえも決まってしまうと著者は言います。本書は、社会から捨てられ、高校中退した若者たちの貧困の実態を伝えます。そして、日本社会の低層に沈んでいる若者たちの嘆き、うめき、悲しみ、なかなか聞こえてこない助けを求める声を、彼らに代わって社会に伝えます。

8、若者が《社会的弱者》に転落する

宮本みち子 著

(洋泉社) 2002年



青年期と成人期の間「ポスト青年期」と称される新しいライフステージが出現したと著者は言います。経済不況や就職難に直面し、成人期に至る新たな行程が見つからずに、つまずき、そのまま生活基盤をもてずに、リスクで混沌とした世界をさまよっている若者が多くいるというのです。看過できない危機の本質を多様な視点から指摘し、社会が取るべき方策を示します。

9、女子高生の裏社会

仁藤夢乃 著

「関係性の貧困」に生きる少女たち

(光文社) 2014年



今や、「普通」の女子高生が「JKリフレ」(女子高生によるリフレクソロジー＝個室でのマッサージ)や「JKお散歩」(女子高生と客とのデート)の現場に入り込んできていると著者は言います。取材を通して出会った「JK産業」で働く少女たちが、そこに行き着くまでの背景や状況、そしてその後をまとめた一冊。今、子どもたちの周りで何が起きているのかを探ります。

10、女子大生風俗嬢

中村淳彦 著

若者貧困大国・日本のリアル

(朝日新聞出版) 2015年



大学や短大、高専の中退理由の第一位は「経済的理由」。「今の女の子たちは昔みたいに遊ぶためじゃなくて、生活するため、学費を払うために、自分の意志でカラダを売っている」、この衝撃的な現状をレポートします。彼女たちの裸になる理由は社会を映し出す鏡であり、景気や社会状況と密接にリンクしていると著者は言います。

11、性風俗のいびつな現場

坂爪真吾 著

(筑摩書房) 2016年



貧困は複雑で複合化され、女性において貧困と性風俗は深く結びついています。風俗は無店舗型になった今、繁華街の路地裏から、社会の見えない谷間や隙間に潜り込み、溶け込んでいったと著者は言います。「今、現場で何が起きているのか」「その背後には、どのような社会問題が潜んでいるのか」「それらの問題は、どうすれば解決することができるのか」を探ります。

12、施設で育った子どもたちの語り

『施設で育った子どもたちの語り』編集委員会 編

(明石書店) 2012年



児童養護施設での生活を体験した人たちによってつづられた21の自分史です。家庭での壮絶な生活体験、施設や里親さんのもとでの新しい生活、そして現在の生きる姿を、ありのままに、心情を言葉にうつして書留められています。今、社会的養護のもとで生活している子どもたちの心の動きに気づき、心の声に耳を傾け、寄り添っていく関わりが大切であるというメッセージが伝わってきます。

13、ひきこもり支援論

竹中哲夫 著

人とつながり、社会につなぐ道筋をつくる

(明石書店) 2010年



ひきこもる人とは、何らかの事情によって、人とつながること、社会とつながることが困難になっている人たちです。長期化するひきこもりは、本人だけでなく、親・家族にとっても解決の難しい重い問題です。支援の実践的方法、ライフステージに合わせた支援、引きこもり支援の法制度などを解説します。

14、居場所のちから

西野博之 著

生きてるだけですごいんだ

(教育史料出版会) 2006年



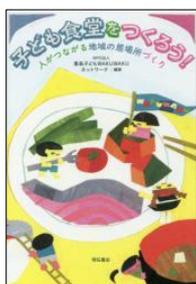
著者が、多摩川(タマリバー)のほとりに「たまりば」という名のフリースペースを開いてから15年、学校のなかに自分の「居場所」をもてない子どもたちと出会ってから20年。子どもたちのいのちに寄りそい、子どもたちの声を聴きながらとまどい、悩んだ日々のなかで、何を感じ、何を手にしてきたのか。また、子ども・若者たちをとりまく状況はどう変わってきたのか。「たまり場」誕生から現在までをふり返りつつ、つづります。

15、子ども食堂をつくろう！

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 編著

人がつながる地域の居場所づくり

(明石書店) 2016年



あったかいご飯を食べて、お風呂に入ってぐっすり眠るのが子どもの仕事です。そんな暮らしがどれほど大切なのか、安心して暮らした土壌がのちにどれほどの影響を及ぼすのか。子ども食堂は子どもだけでなく、大人も懐かしさや温かさを感じるみんなの居場所になっています。立ち上げ準備から運営のコツまで体験談を交えながら紹介します。

16、さっちゃん

荒木経惟 著

(新潮社) 1994年



1962年、東京下町の戦前からある古い団地アパートの周りを、弟・マー坊や友達とともに駆け回り、遊び倒す小学4年生の「さっちゃん」。「生きるっていうのはね、やっぱり、跳ねるとか、ヴィヴィッドであるとか、声大きいとかってことだから。少年たちがさ、フレームから画面からはみ出ているでしょう、飛び出ているでしょう」との著者の言葉からもわかるように、子どもたちの溢れる笑顔を活写する写真集です。



主催:フォーラム(男女共同参画センター横浜)

フォーラム 横浜

検索

おすすめ本フェア推薦本は、貸し出しできます。ご利用方法は次のとおりです。

情報ライブラリ利用案内

男女共同参画センターの情報ライブラリは、横浜市内にあるフォーラム(男女共同参画センター横浜)、フォーラム南太田(男女共同参画センター横浜南)、アートフォーラムあざみ野(男女共同参画センター横浜北)の3館で資料の相互貸借サービスを行っています。3館の資料はどの館からも取り寄せて借りることができます。返却も3館すべて利用できます。

* ライブラリカードのお申し込み

カードを作る人

個人カード 小学生以上で横浜市に住んでいるか、通勤・通学している人

団体カード 担当者(直接借りにくる人)が横浜市に住んでいるか、通勤・通学しているグループ、団体

* 貸出・返却

貸出 本、雑誌、ポスター ひとり10冊(枚)まで、2週間借りられます。
DVD、ビデオ フォーラムのみ、館内で視聴できます。
団体カードをお持ちの方なら、館外貸出可のDVD、ビデオを3本まで、1週間借りられます。

返却 カウンターにお返しください。閉館時は、本と雑誌のみ、ブックポスト(フォーラム)に返すことができます。

テーマ別セット貸出について

おすすめ本フェアでご好評いただいた展示資料(選書リストを含む)を、すべてセットにして貸し出します。公共施設や図書館、学校、病院での展示に、またグループでの勉強会にもぜひ、資料セットをご利用ください。

貸出内容 展示するスペースにあわせて、セット貸出できます。

貸出期間 2ヶ月

貸出料金 無料(送料は、ご負担願います。)

ご希望があれば、展示のアドバイスも承ります。
お気軽にご相談ください。

詳細はお問い合わせください。

男女共同参画センター横浜 情報ライブラリ

TEL 045-862-5056



●フォーラムは、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が管理運営する横浜市の男女共同参画センター3館のうちの1つです。
●パソコン(スマートフォン)向けにメールマガジンで講座・イベント情報をお届けしています。登録は協会のHPまたはQRコード(右)から

